

## 様式4\_助成事業実施報告書

2019年 9月 25日

### 助成事業実施報告書

団体名 立川市獅子舞芸能保存会

代表者・役職名 氏名 会長 井上 孝

#### ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

#### 1. 助成プロジェクト名

立川市指定無形民俗文化財 獅子舞・棒仕いの伝承

#### 2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

元禄時代から近年までは柴崎町1丁目の旧村が獅子舞を、富士見町3・4・5丁目の旧村が棒仕いを担当し伝承してきたが、昭和38年6月に立川市獅子舞芸能保存会を設立し、協働して伝承することとなり、現在に至る。会員数30名

#### 3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

立川の旧本村である柴崎町・富士見町に元禄時代から伝わる本市唯一の無形民俗文化財である獅子舞・棒仕いの維持保全並びに後継者の育成に努めることを目的とする。

#### 4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

- ・毎年8月に行われる立川諏訪神社例大祭での獅子舞・棒仕いの奉納
- ・後継者の育成

#### 5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

本助成金を活用して、棒仕いの衣装である袴を二十数年ぶりに新調することができた。立川諏訪神社例大祭への奉納は無事に執り行われ、観客数は例年よりも多く、地域に本伝統芸能を広く知らしめることができた。また、舞子を務めた小中学生をはじめ、関係者は本事業の維持保全への意識を一層高めることができた。また、令和2年2月29日に行われる立川市立立川第一小学校創立150周年記念式典に棒仕いが出演することとなった。

#### 6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

次年度は棒仕いの舞子を務めたいという小学生が名乗りをあげてくれたことは大変喜ばしいことである。しかし、棒仕いの師匠、獅子舞の笛方等のスタッフの減少傾向は続いている、後継者の発掘と育成が引き続き大きな課題である。広報活動を工夫し、本会への入会希望者を募る必要がある。

#### 7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。 参考資料あり • 特になし

## 諏訪神社

例大祭



## 立川の獅子舞

徳川綱吉の時代から続いている?

立川の獅子舞。

元禄2年に、獅子舞が奉納された記録が残っている! あの5代将軍徳川綱吉の時代から続いているんですか? 今回の特集を組むことがきっかけで、初めて諏訪神社の獅子舞の存在を知った、立川市民歴12年の私。

早速、立川の獅子舞を勉強するため「立川市獅子舞芸能保存会(以下保存会)」に取材してきました。地域の五段囃縄・悲疫退散を祈願して奉納する獅子舞を、保存・継承する団体です。330年近く、伝統芸能を支える方々。頑固で無口な職人さんみたいのかしら~いえ、優しくて気さくな皆さんでした。ホッ。



▲昭和レトロな佇まいの「獅子宿」こと、柴一八  
保存会公会堂。ここで獅子舞の練習をする。

例大祭のメインイベントが、立川市指定無形民俗文化財の伝承会「の皆さん」に注目しました。



立川市獅子舞芸能保存会

副会長★鈴木恒雄さん 会長★井上孝さん  
獅子舞への情熱が、ビシビシ伝わりました。  
保存会の皆さん、カッコいいです!

新旧  
舞子に  
シタビ  
ーしました。

**先輩の舞子**  
井上孝さん／会長  
小学5年生から天狗・雄舞子・雄獅子(中頭・大頭)を16年間舞う。現在は、子ども達に獅子舞を教えるお師匠さん。

子どもの頃、獅子舞を踊るのは体力的すぎて辛かった。だけどお師匠さんになった今、「もう一度踊りたい」という気持ちになる。これは演じた人にしかわからない、獅子舞の魅力。

**現代の舞子**  
いkey君／大學生  
小学4年生から現在まで、棒使い(天狗・天狗・雄舞子・雄獅子(大頭・中頭))を経験。

小さい頃から見ていたので、ずっと覚えていました。念願かなった時は、「できて良かった」という気持ちでした。毎年舞っていますが、何年やっても完全にできないから毎回勉強です。使命感もありますが、なにより舞うのが楽しい。

**先輩の舞子**  
鈴木恒雄さん／副会長  
小学3年生から中頭1年生まで棒使いを経験。現在は子ども達に棒使いを教えるお師匠さん。

棒使いに選ばれた時は「お化粧をするので」恥ずかしくて嫌だったが、いき詰めてみると楽しくて仕方なかった。その後練習会メンバーから試合を受ける。夏の練習を毎日見学。昨年から棒使い(小頭)を担当。

**現代の舞子**  
ともき君／小学4年生  
小学3年生の時、社会の教科書の表紙に獅子舞が載って、伝統に残るんだな、やりたいなと思った。実際踊ってみると、難しい部分もあっただけで、パートナーと二人で意識しながら、うまくできたかな。

(まりちゃん)



▲大江山の鬼退治をした源賴光の導来、渡辺頼・坂田金時・大江保正・崔定光が「技」を磨く場面を演じる。

## 小学生が頑張る、棒使い。

きりっと太い眉毛に、スッと白い筋筋、真っ赤な唇の4人の少年。彼らは、獅子舞の露払いの役目「棒使い」という舞子です。短めの棒、小棒を担当するのは初心者。自分より背の高い棒や、器用にフル回転する様子は「かわいい!」の一言に尽きます。長めの大棒は、小棒を経験した少年の担当。思のあった、太刀と棒別きが壮快です。思わず応援したくなります。

継承するのは、やっぱり大変。  
でも、いいことだってあります。

魅力あふれる立川の獅子舞。しかし330年の歴史を受け継ぎ、後世に残すことは大変です。

まず、後継者問題。とくに舞子の成り手を見つけるのが難しいそう。そこで約4年前、当時の会長だった故・沢田和夫さんが小・中学校の授業(立川市立校)で獅子舞の説明を始め。一昨年からは会長の鈴木さんも、地元の小学校で獅子舞の授業を行っています。鈴木さんは「地域に伝わる郷土芸能を地元の子ども達にもっと知ってもらいたい。その中から舞子に興味をもってくれる子ども達が出てくればいいな」と語ります。土俵で舞うことから、舞子は男の子に限られているけれど、女性の私からみれば、伝統芸能に関われるなんて嬉しい。

他にも困りごとがあります。保存会の運営費のほとんどが寄付で賄われていること。そして、そろそろ修理が必要な、幕末生まれ(!!)三代目の獅子頭ですが、詳しい資料が残っていないため、修復が難しいそうです。

いいこともあります。「私が子どもの頃に比べて、自治会の人の弊がりは年々薄れていますけれど、獅子舞を継承していくことで、昔からの人の弊がりもほりていいたい。」と語る鈴木さん。獅子舞は、地域の人々との関わりを作る役目も、果たしているのですね。

練習を見学したとき、舞子の子ども達が「お師匠さんが優しいから、楽しい!」と口を揃える姿が印象的でした。(ようこちゃん)

例大祭、まだまだありますよ。

## 阿豆佐味天神社 例大祭

9/15

10/3



阿豆佐味天神社は、砂川の新田開発の際に、村の鎮守の神として寛永6年(1629年)に建立されました。御祭神は、医学・健康・知恵の神として名高い少彦名命、文学・芸術の神、天児屋根命の二本柱。また、この地では、養蚕業が盛んであったことから、蚕や桑を食べるネズミを退治することから猫が守り神とされていて、今では、猫に関する願いが叶うという「猫返し神社」として有名です。本殿は、市内で一番古い建築物として、立川市の指定有形文化財に指定されています。

例大祭が行われる日は、神樂殿で奉納芸能会や神楽、太鼓などの郷土芸能が催されるほか、五日市街道を太鼓、お囃子が練り歩きます。境内では、砂川産の青果直売も行われます。元日には、だるま市が立ち初詣客で賑わいます。

## 熊野神社 例大祭

8/17

8/18



熊野神社は、享保11年(1726年)に開拓されたと伝わる七軒家という集落の鎮守として創建されました。元は、現在の立飛リアルエステートの南門あたりにありましたが、昭和20年の空襲で焼け、その後、現在の場所に移りました。

例大祭が行われる日は、境内で氏子による日本舞踊、奉納芸能のほか、祭礼二日目に高松町の全9町会から神輿が集結し、勇壮な神輿パレードが行われます。先頭の神輿がお祓いをしながら神輿を先導し、その後に山車や太鼓が続き、ファーレ立川から熊野神社を目指します。(みかちょ)

番外編 新しい故郷の文化祭を創造した、立川市の市民祭り

## 立川よいと祭り ~光と音のシンフォニー

平成元年生まれ、地域活性化を目指し始めた『The Japanese Summer』。

よさこい、パレードから和太鼓、お囃子、山車、万灯みこし、松明回しと祭りのオールスターが勢揃い。どっぷり祭りの世界に浸ること間違いなしです。

市と地域の様々な企業、団体の参加と協力で作り上げられ【にぎわい】「やすらぎ」【交流】【文化保存継承】が主目的で、人と人をつなぎ、地域の絆を育んでいきたい。そしてよいと祭りの名前には『立川をより良いかるさとへ』などの願いが込められています。

昔からある良いものを残していくことを目指すシンプルなキモチが形になったお祭りではないでしょうか。



(まりちゃん)

